

2. イチゴ高設栽培（岡山農試式）における培地利用可能年数（技術）

[要約]

高設子苗定植法において、‘さちのか’で9年間、‘とよのか’で5年間、不耕起で栽培することが可能である。プランターの交換が必要な場合、‘さちのか’では培地の再利用が可能である。

研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0277
------	---------	-----	--------------

[背景・ねらい]

岡山農試式イチゴ高設栽培の子苗定植法では、不耕起の培地で栽培を行っている。栽培槽は園芸用プランターを用いていることから7～8年程度で劣化し、交換が必要になってくる。そこで、培地の利用可能年数及び培地の再利用が収量に及ぼす影響について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. ‘さちのか’は子苗定植法で9年間不耕起栽培しても、早期収量、全期収量に差はなかった（図1）。
2. ‘さちのか’では、前年まで不耕起栽培した培地を耕起し再利用しても、早期収量、全期収量に差はなかった（図1）。
3. ‘とよのか’は子苗定植法で7年間不耕起栽培すると、5年目までは早期収量、全期収量に差はなかった。しかし、7年目では早期収量、全期収量ともにやや減収した（図2）。

以上のことから、‘さちのか’は不耕起で9年目まで培地の利用が可能であるが、‘とよのか’は5年目までに交換した方が望ましい。また、プランターの交換が必要になった場合、‘さちのか’は、培地の再利用が可能である。

[成果の活用面・留意点]

1. プランター内の培地が減少した場合は、新しい培地を追加する必要がある。
2. 土壌伝染性病害が発生した場合、培地を交換するか、太陽熱消毒をする。
3. ‘とよのか’での培地の再利用は未検討である。

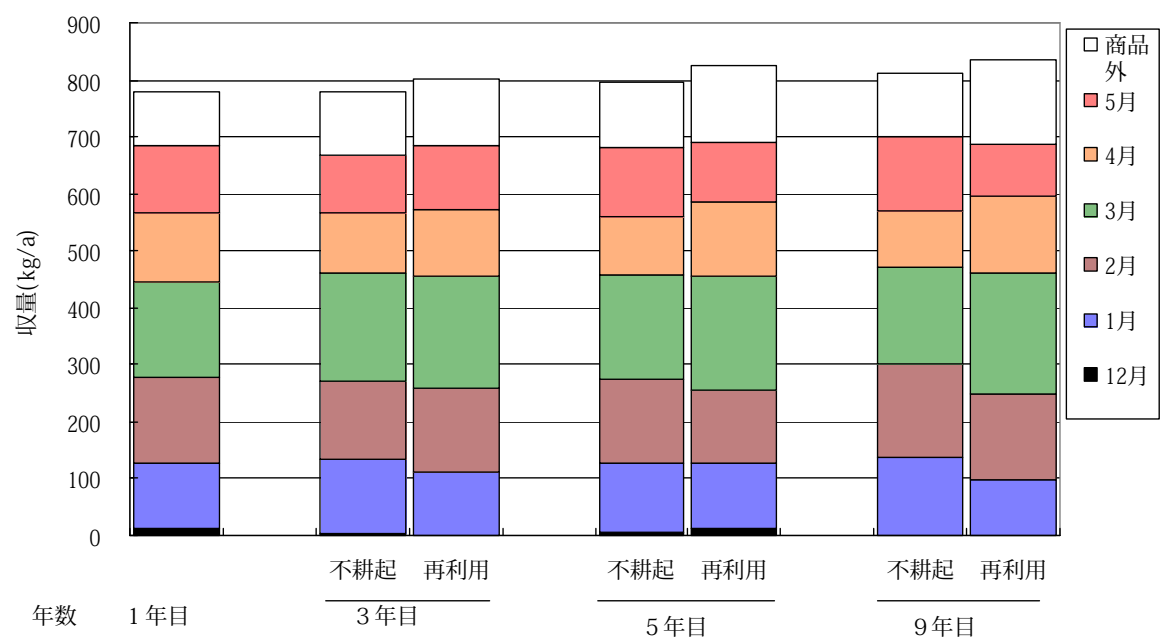


図1 培地利用年数及び再利用が収量に及ぼす影響（さちのか）（2002年度）

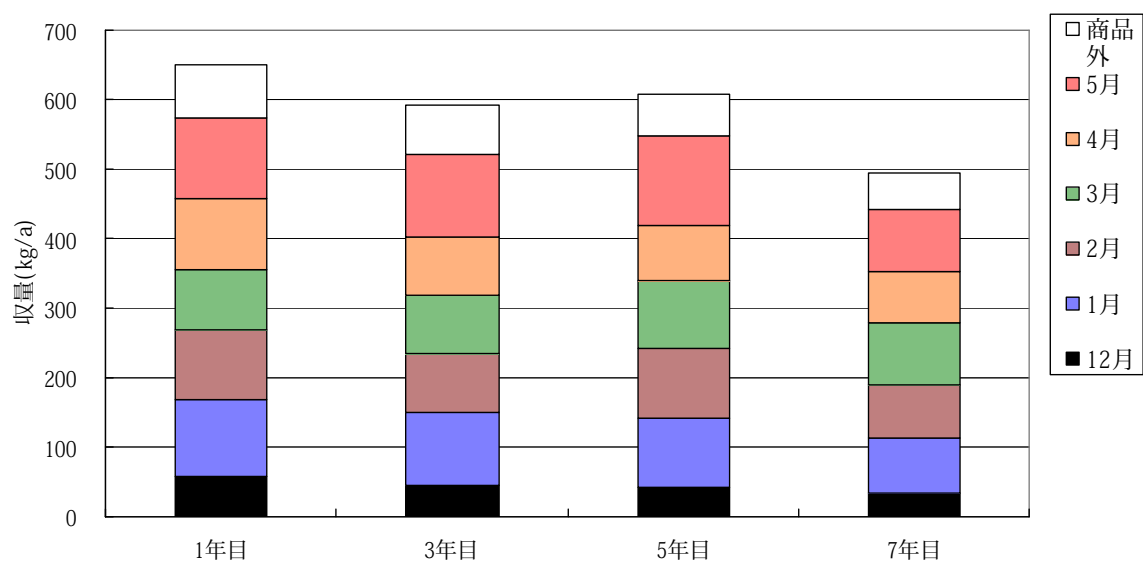


図2 培地利用年数が収量に及ぼす影響（とよのか）（2000年度）

[その他]

試験研究課題・事業名：野菜類の省力適性品種育成による省力・軽作業化技術の開発

予算区分：受託（超省力園芸）

研究期間：平成9～16年度

関連情報等：平成9年度試験研究主要成果「イチゴの簡易高設栽培装置」